

高城町立四家中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本地区は、高城町内の北部に位置し、自然環境豊かな地である。産業の中心が農業であり、たばこ・大根等の生産が行われている。また、10号線沿いにはボートピアがあり、本校の近くには、産業廃棄物処理施設が建設されているため、交通量が多く、大型トラックの通行も多い。

本校は、昭和37年の生徒数217名を最後に年々生徒数が減少し、平成14年度から複式学級が始まり現在に至る。地区の人口も減少し、少子高齢化が進んでいる。保護者は、学校の教育活動に対する理解があり協力的ではあるが、学業成績や進路に対する関心の度合いには、個人差がみられる。また、PTA活動等には非常に協力的で、特に学校行事には、保護者のみならず地域の方すべてで取り組むなど、本校の存在は、四家地区にはなくてはならないものとなっている。

2 生徒の実態

生徒は純朴で礼儀正しく、言葉遣いも大変良い。学校行事や地域の活動にも熱心に取り組む。また、幼い頃から同じ環境で育っているため、互いに良く理解し合っている。それだけに、役割が固定化し、受動的な面が見られる。その傾向は学習面にも現れ、まじめな授業態度ではあるが、積極的に発表や質問をしたり、自ら学習に取り組んでいこうとしたりする生徒が少ない。また、基礎的・基本的な学習内容の定着に個人差が見られ、発言の場面で萎縮したり、自信のない態度を取ったりするなど、学習に対して消極的な生徒も見られる。

3 学力向上に向けた経営方針

本校では、学力向上をめざして主題研究に取り組んでいる。

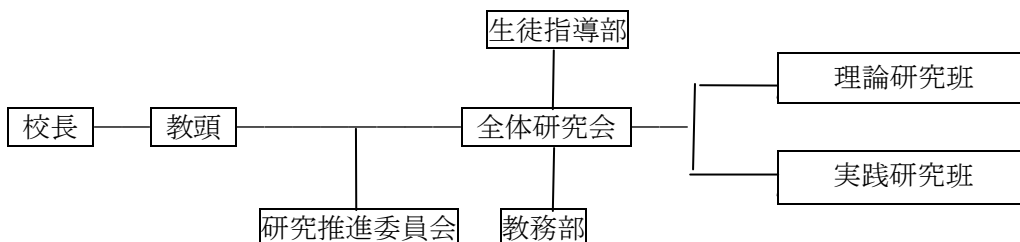
(1) 研究主題

「豊かな心をもち、自ら意欲的に学習する生徒の育成」
～基礎的・基本的な内容の定着を図る、学習指導法の工夫を通して～

(2) 研究仮説

生徒一人一人の学習に関する実態を的確に把握し、教科の授業や朝の学習・午後の活動の中で、指導体制や個に応じた学習形態などの工夫・改善を行えば、基礎的・基本的な内容の定着が図られ、ひいては、自ら意欲的に学習する生徒を育成することができるであろう。

(3) 研究組織



4 教育課程内の取組

(1) 理論研究班の取組

① 問題解決的な学習に関する研究

本年度から、各小中学校単位で、「知」・「徳」・「体」の到達目標を設定することになった。それに合わせて本校では、到達目標を達成するために、問題解決的な学習を指導の中に取り入れ、実践していくことにした。

問題解決的な学習過程を実践していく手段としては、以下のような5段階の指導過程を設定し、この段階が生徒にも分かるように、段階プレートを黒板に貼ることにした。このことは、ガイダンスを通じて生徒に説明し、学習意欲の向上を図った。

㊦:つかむ段階 ㊧:見通す段階 ㊨:調べ深める段階 ㊩:伝え合う段階 ㊪:まとめる段階

資料1：問題解決的な学習方法が含まれている本校の到達目標一覧の一部（数学の例）

到達目標	1年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文字を含んだ式の値を求めることができる。(80%) ○ 正の数・負の数の計算ができ、方程式を解くことができる。(90%)
	2年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 等式の変形ができる。(90%) ○ 文字を含んだ式の計算ができ、連立方程式を解くことができる。(100%)
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平方根の大小関係を理解できる。(90%) ○ 式の展開・因数分解ができ、二次方程式を解くことができる。(85%)
具体的な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業のはじめに、「5分間プリント」（計算問題・復習問題）を取り入れる。 ○ 導入段階で、必ず前時の復習を入れる。 ○ 各小単元を終えたら、ワークで内容の復習をする。 ○ 授業の中で、発表活動や操作活動をできるだけ入れるよう工夫し、主体的な授業展開を実践する。 <p>【問題解決的な学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習は、学習効果が上がるよう毎時間、積極的に取り入れる。 ○ 問題解決的な学習の各段階については、特に「つかむ」段階と「見通す」段階を中心に授業を組み立て、課題に意欲をもって取り組むような展開にする。 	
教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算問題では、習熟度に応じたプリントを準備する。 ○ 操作活動では、実験等を交えながら興味・関心・意欲を引き出す工夫を行う。 	
実践結果	1年	
	2年	
	3年	

② 評価の工夫と指導案の改訂

生徒の授業への受け止め方と理解度を把握するため、各教科「自己評価表」を作成した。また、本校の生徒は、学習に対して消極的であるとともに、授業に対しても受け身的であるので、授業の中に「表現」の場面（※指導案を参照）を設定するよう、新たに指導案に項目を設けた。

資料2：理科の自己評価表

①単元名	
②忘れ物	
③挙手・発表	
④ この単元で勉強したことを書きなさい。	
⑤ どの程度理解できたと思いますか。	A ほとんど理解できた。 B 7～8割程度は理解できた。 C 半分程度は理解できた。 D ほとんど分からなかった。
⑥ 今回習ったことで、分かりづらかったところはどこですか。	
⑦単元テスト点数	()点満点中()点

(2) 実践研究班の取組

① 各教科における授業改善のための研究・実践

学習指導法の工夫・改善及び評価の在り方を研究するために、各教科年1回ずつ研究授業を実施した。本年度は特に、学習指導法の中に問題解決的な学習過程を取り入れ、授業後の研修会や「参観記録用紙」に記入された参観者の感想を参考にして、各教師が積極的に授業改善のための研究・実践を行っていった。また、四家小学校と連携を図るために、夏休みに教科部会を実施し、2学期以降お互いに授業を参観し合った。

② 「朝の学習」・「午後の活動」の時間の効果的な運営

基礎学力を向上させるために、校時程を工夫して「朝の学習」の時間と「午後の活動」の時間を設定した。（※ 3年生は、受験対策セミナーを実施。）

ア 朝の学習の時間（15分）

主に、「読書」・「聞き取り学習」・「計算」・「基礎体力向上」を曜日ごとに行った。

イ 午後の活動の時間（20分）

「漢字」・「英単語」・「計算」・「テストの対策と復習」など、各教科の補完学習を主に行った。

5 教育課程外の取組

- (1) 基本的な学習習慣と生活習慣を身につけさせる指導の実施
- (2) 「家庭学習」・「英語家庭学習」を使った指導
- (3) 昼休み・放課後・長期休業を使った補完学習
- (4) 各種検定受験への呼びかけ（漢字検定・英語検定）
- (5) 生徒会活動を主体とした取組（「家庭学習の仕方」などの作成）
- (6) 四家小学校との連携（授業研究会の実施）

6 保護者・家庭、地域との連携

1学期に行った「学習に関する意識調査」の結果から，“ながら勉強”をするなど、家庭学習のやり方に問題があることが分かった。この結果を受けて「学級通信」や「進路通信」，「成績連絡表」や各種懇談会などを通じて，保護者に家庭学習の啓発を行った。また，“家庭学習の手引き”を作成して指導を行った。更にテスト前には，各自に家庭学習の計画表を立てさせ，テスト前とテスト終了後の取組について資料を使って指導を行った。その他「家庭学習の計画表」の中に保護者によるチェック欄を設けて，保護者にも更に家庭学習に目を向けてもらうようにした。

資料3：家庭学習の計画表

曜日 時間	月	火	水	木	金	土	日
6時						6	
7時						7	
11時						12	
12時						1	
保護者の チェック							

※ 早起きして勉強する人は，時間を書きかえて使いましょう。

※ 1年生は毎日最低2時間，2・3年生は3時間宅習しましょう！！

※ 保護者によるチェックは，よく守れている時は○，おおむね守れていれば△，ほとんどできていないように見られたら×を書き込んでください。

7 成果と課題

(1) 成果

- ① 「学習に関する意識調査」を行った結果，改善すべきところが明確となった。それにより改善策を全職員で検討して，実践に移すことができた。
- ② 基礎学力のアップに重点を絞って「朝の学習」・「午後の活動」を行った結果，生徒の学力に伸びが見られた。
- ③ 各教科で，授業の中に問題解決学習や表現の場面を取り入れた結果，授業に取り組む生徒の意欲が以前よりも向上し，発表や質問の回数が増えた。
- ④ 「自己評価表」は，教師・生徒双方とも理解度を確認するのに役立ち，特に教師は，この評価結果を参考にしながら，授業改善を行った。
- ⑤ 四家小学校との連携は，学習指導に対してお互いの立場から要望などを出し合い，それによりよく実際の指導に生かすことにつながった。

(2) 課題

- ① 生徒は，与えられた課題などにはまじめに取り組むが，自ら進んで学習しようという意識は乏しいので，自学への意識向上を図ると同時に，学習方法を指導していく必要がある。
- ② 基礎・基本の指導を重ねてきたが，学力の差はまだ依然としてあるので，更に生徒一人一人の理解度に合わせた指導を行っていく必要がある。
- ③ “ながら勉強”をするなど，家庭学習は量・内容・態度すべてにおいて改善すべき余地が残っている。生徒だけではなく，保護者にも家庭学習の在り方等についての啓発を行い，学校と家庭が連携して改善していく必要がある。